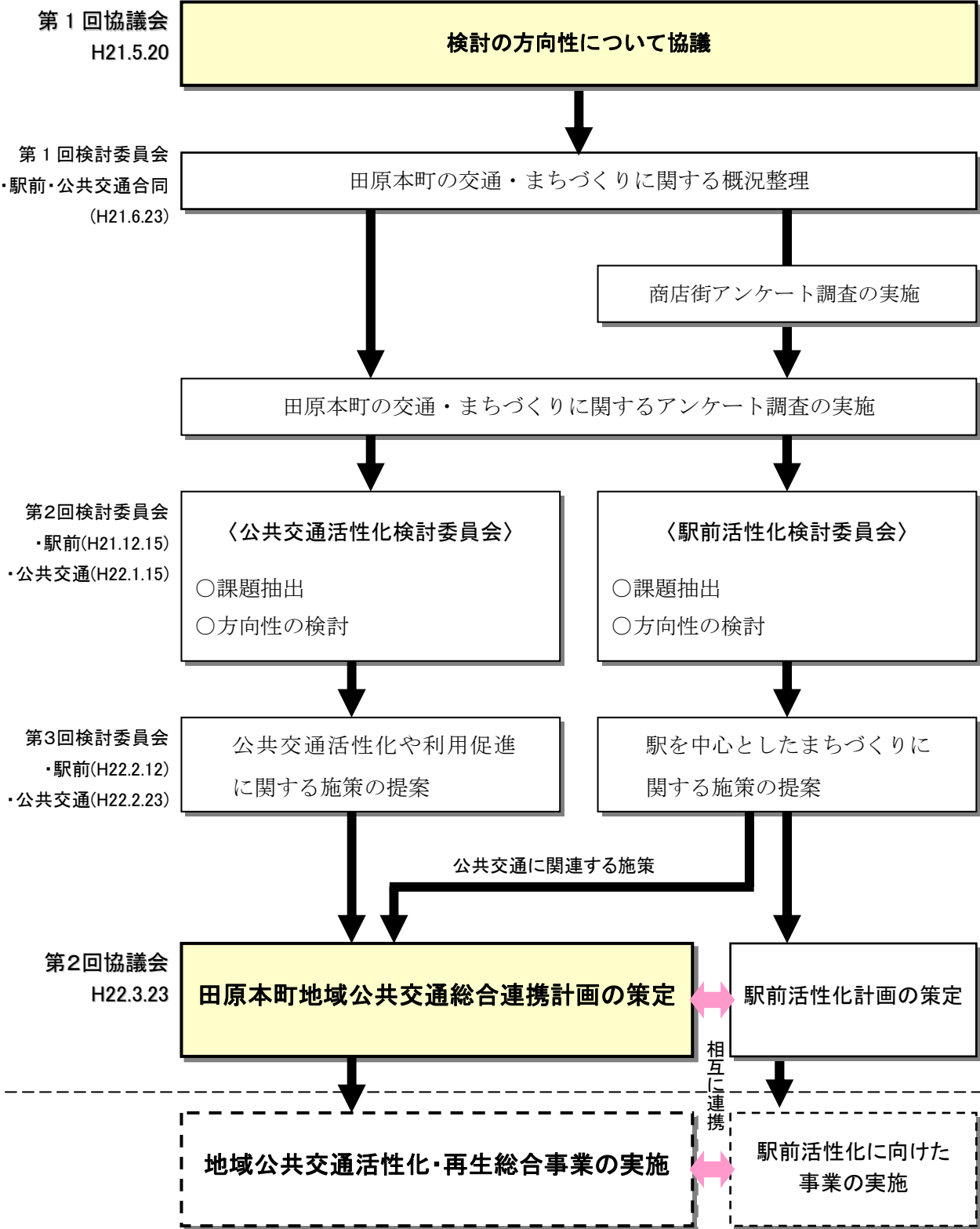


各委員会の検討結果

1. 協議会及び検討委員会の流れ



2. 駅前活性化検討委員会の検討結果

(1) 地域の問題点

① 町民から見た問題点

- ・駅前地域店舗を週1回以上利用している町民は1割。大半が60歳以上の高齢者。
- ・道路が狭く、駐車スペースが不足。

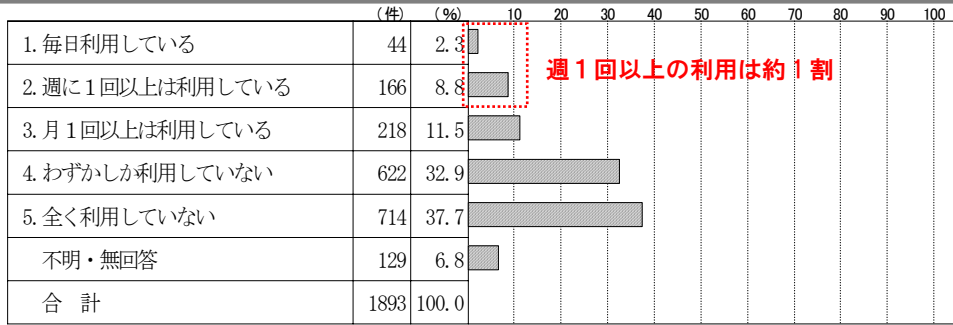


図 駅前周辺地区の店舗を利用状況

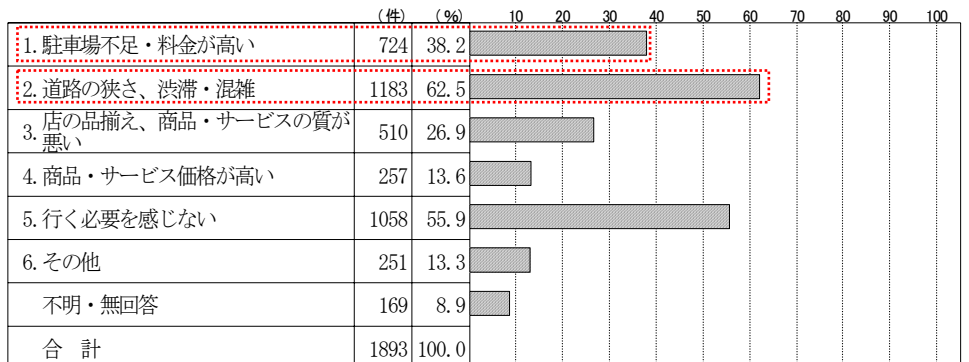


図 駅前周辺地区の店舗等に対する問題点

②旧町商店街の実態・ニーズ

- ・経営状態は低迷。店主の高齢化が進展。事業継続を希望する店舗はわずか3割。
- ・充実を希望する機能は「商業」・「生活」・「公共交通利用のための休憩・滞留機能」

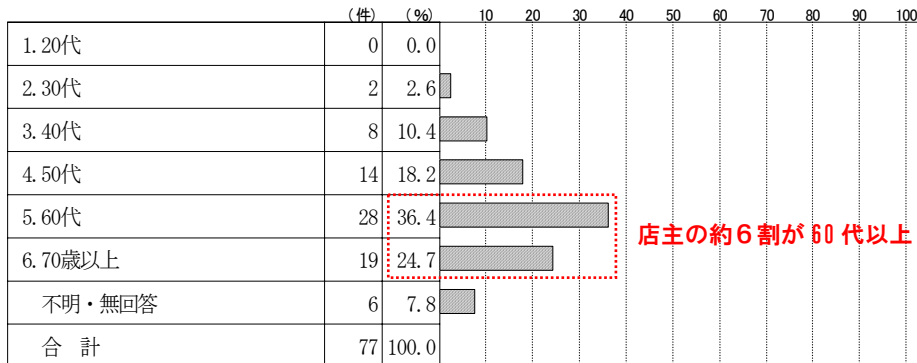


図 店主の年齢

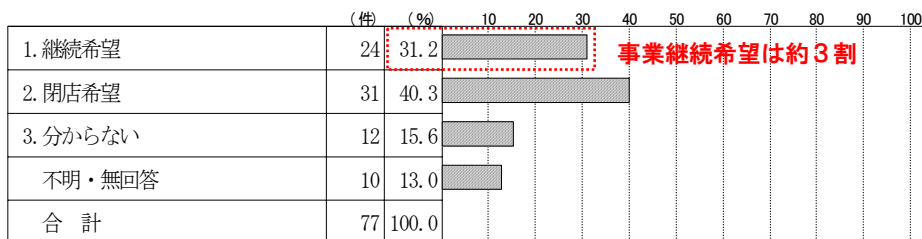
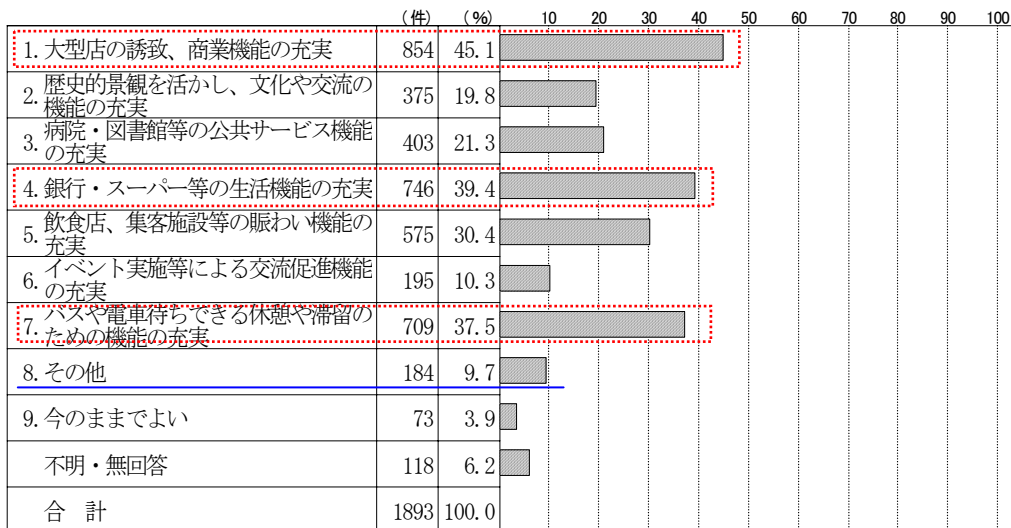


図 事業の継続意向



どのような店があるか、コシをかうならココといった地図や店紹介などをつくって欲しい。

お年寄りの交流の場を設ける。

車に乗れない人が買い物できなくて困っている。

歴史的文化を活かすのであれば、もっと観光地として施設というものを考え直した方がよいと思いま

「その他」の具体的な意見

図 駅周辺地区の活性化に必要な機能（複数回答）

駅を中心としたまちづくりの方向性及び施策内容

エリア	まちづくりの方向性
駅前商店群	<ul style="list-style-type: none"> ●現状では、主要な顧客層は町内の高齢者であることから、今後も高齢者をメインターゲットとして、生活日用品を取り揃えた店舗の充実等を行い「日常生活機能」を充実することが必要である。 ●駅前商店群等に立地する、経営継続予定店舗や店舗活用しやすい物件を対象として、駅前周辺への店舗の集約化を戦略的に行うことが必要である。 ●既存の観光案内所や浄照寺等を活かして、住民と来訪者のふれあえる「観光交流機能」を形成し、田原本の歴史生活文化の魅力のPRに努める。
町家景観地区	<ul style="list-style-type: none"> ●代表的な生活文化資源である「町家」については、今後ますます、相続等による更地化・建替等が進むと推察されることから、エリア一帯のまちなみ保全の考え方を整理する必要がある。
駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> ●駅東部の「駅前商店群」や「町家景観地区」とのつながりに留意しつつ、「田原本の玄関口」に相応しい利便性やデザイン性に留意した「高度な都市サービス機能」を集積させる。

テーマ	施策内容		
まちづくりに関する施策	賑わい	施策① 駅前店舗情報のマップ化を前提とした、既存の店舗情報の整理 施策② 経営に前向きな店主等による、駅前活性化の方向性を検討する場の創出 施策③ 駅前商店群における魅力的な店舗等の充実 施策④ 歴史や生活文化資源等をベースにした地域ブランドの育成	
	まちなみ・歴史	施策⑤ 建物資源(歴史的な建築物や空家等)のPRの検討 施策⑥ 大学や専門家等とのタイアップによる、建物資源の利活用の仕組みづくり 施策⑦ 古代～近世の遺跡が一体となったパッケージの開発	
	まちと交通が連携した施策	賑わい	施策⑧ 観光案内所や鉄道会社等との連携による、店舗や公共交通に関する情報の一体的なPR 施策⑨ 駅前での滞在をより楽しむための賑わいの創出 施策⑩ 田原本の玄関口に相応しい機能の検討・整備
		交通に関する施策	施策⑪ 高齢者や観光客等をターゲットにした新たな公共交通の導入 施策⑫ 公共交通の利用促進 施策⑬ 徒歩や自転車で動けるコンパクトなまちの形成

公共交通総合連携計画へ反映

3. 公共交通活性化検討委員会の検討結果

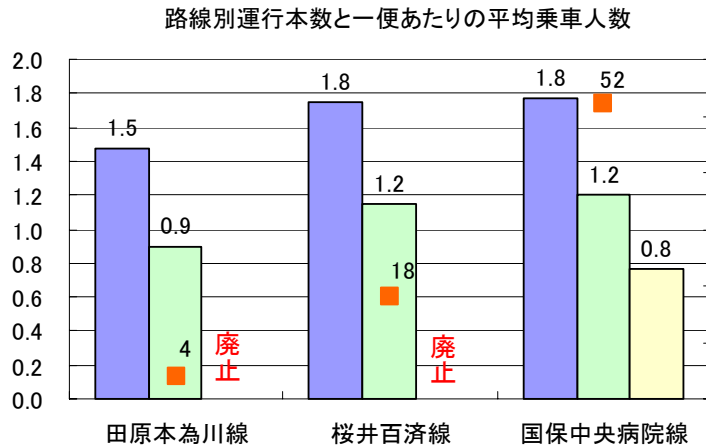
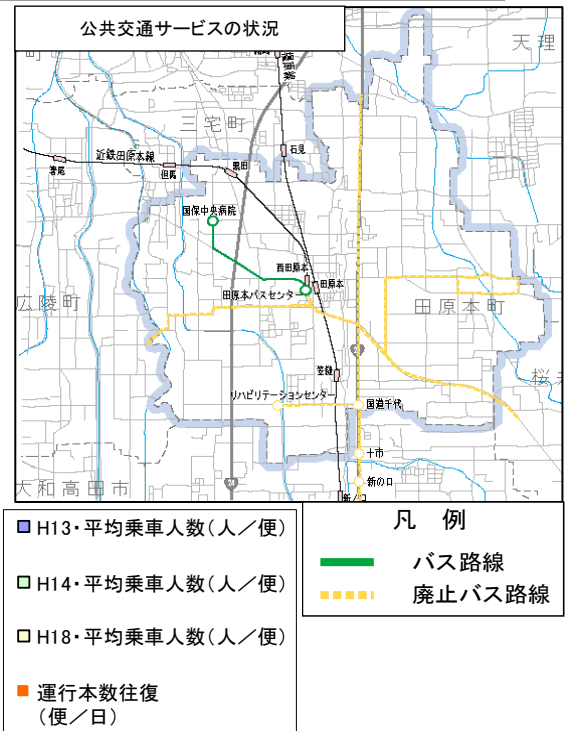
(1) 公共交通活性化に向けた地域の問題点

① 路線バスの撤退により公共交通が不便

- ・ H16 に路線バスが廃止。現在は国保中央病院線のみ運行するも利用者数は減少の一途。
- ・ 近鉄線を除くと町内を移動する公共交通は福祉サービスのみ。

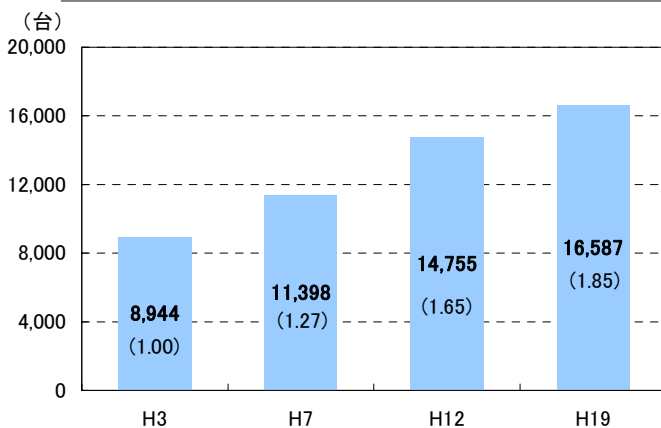
	往復 (便/日)	平均乗車人数(人/日)		
		H13	H14	H18
田原本為川線	4	5.9	3.6	H16廃止
桜井百済線	18	31.5	20.7	H16廃止
国保中央病院線	52	91.8	62.6	40

※ 国保中央病院線は平成 21 年現在往復 36 便/日運行

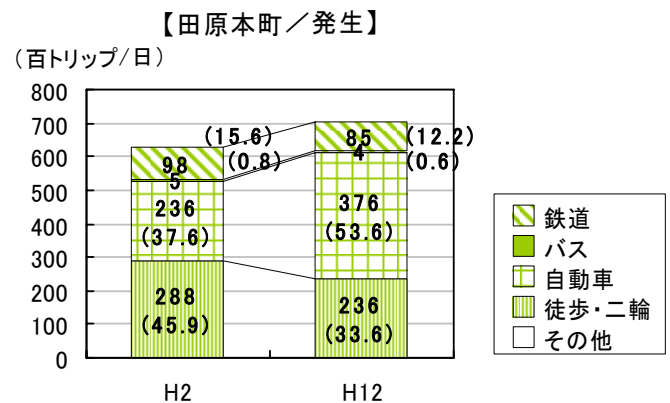


② 自家用車依存となっている移动手段

- ・ 自動車保有台数が大きく増加。自動車の交通量・利用率ともに大きく増加。
- ・ 施設の配置も自動車に対応して郊外化が進展。



※自動車検査登録協会「市町村別自動車保有車両数」より
 図 田原本町の自動車保有台数の推移
 () は H3 を基準とした伸び率



※京阪神圏パーソントリップ調査結果より
 図 交通手段別の発生交通量の推移

③高齢化による交通弱者の増加

- ・ 家族等による自動車送迎に頼らざるを得ない高齢者が多く、買い物や通院に不便を強いられている。

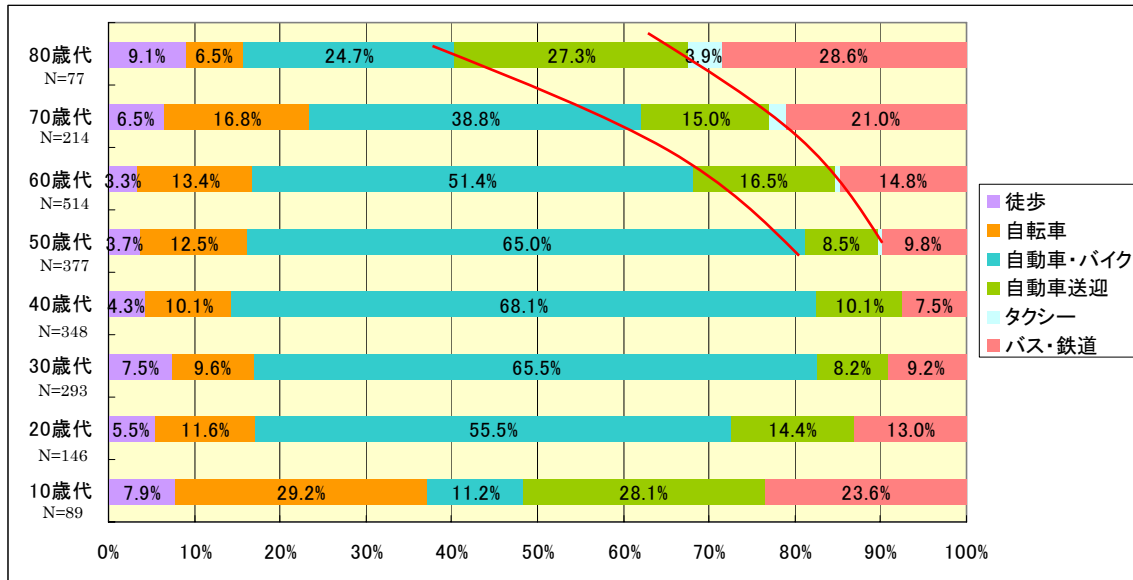


図 年代別にみた田原本町内での移動手段（通勤・通学目的以外）

④将来における移動手段の不安

- ・ 自動車に頼っていると将来が不安との声があり。

⑤駅周辺道路の混雑と安全性

- ・ 通勤・通学時間帯の駅周辺の混雑。・ 道路が狭く、交通量が多いため危険。

駅まで家族に送ってもらうが、82歳になるので心配。(80歳以上・女性)

田原本青垣生涯学習センターは駅から遠く、タクシー以外の公共交通手段がない。(50歳代・女性)

自宅から田原本に出かけるのに交通の便がない。(80歳以上・女性)

今のところ自分で運転できるが運悪く出来なくなったら、タクシーに頼らなくてはと思っている。(70歳代・男性)

雨の日等、駅前がせまく送迎の車やタクシーで混雑し、傘などで前が遮られて危険である。(60歳代・女性)

回答者数 591

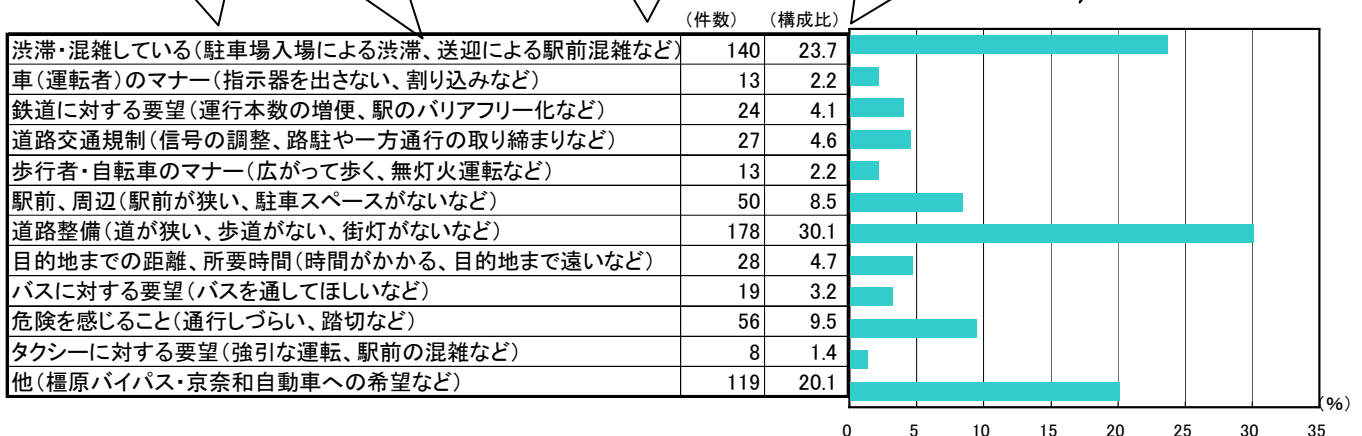


図 通勤・通学目的以外の移動で問題だと思うこと（意見分類）

(2) 公共交通活性化に向けた施策の提案

